

第4期中期目標期間（令和6事業年度）に係る業務の実績に関する報告書

令和7年6月

長崎県公立大学法人

目次

項目	頁
I 大学の教育研究の質の向上及び地域貢献	
1 教育に関する目標	1
2 研究に関する目標	22
3 地域貢献に関する目標	25
II 業務運営の改善及び効率化	
1 組織運営の改善に関する目標	29
2 人事の適正化に関する目標	33
III 財務内容の改善	
1 財務基盤の強化及び効率的な運営に関する目標	35

項目	頁
IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	
1 評価の充実に関する目標	36
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標	38
V その他業務運営	39

○各中期目標の達成状況	
I 大学の教育研究の質の向上及び地域貢献に関する目標 1 教育に関する目標	
中期目標	(1) 実践的教育のさらなる推進 県の地域的・歴史的特性を生かした「しまなび」プログラムや地域の企業・自治体等と連携した企業インターンシップといった実践的な教育を行い、地域課題の解決に繋がる取組を提案することにより、地域産業の発展と持続可能な地域社会形成を担うリーダーとなる人材や地域等の中核を担う課題解決能力を備えた行政人材を育成する。 (2) 教育の質の向上と保証 学生の視点に立った教育や他大学、産業界などと連携した教育の実施、さらには時代の変化に応じた迅速かつ柔軟な教育プログラムの編成に努めるとともに、学生の学修成果に関する情報の恒常的な収集・分析や可視化などを図り、教育の質の向上と保証に取り組む。 (3) 専門的知識・技術の修得及び外国語運用能力の向上並びにそれを下支えする基盤的教育の充実 各学部学科の特色や社会のニーズに即した専門的知識・技術や外国語運用能力をさらに向上させるとともに、数理・データサイエンス・A I 教育を全学的に行い、デジタル社会で活躍するために必要な知識・技術を確実に修得させる。 (4) 大学院課程 高度な専門知識・技術等を修得させるとともに、領域横断的な専門応用能力を涵養する人材の育成を目指し、学生や社会人など多様な分野からの受け入れを推進する。 (5) 学生支援と県内就職向上のための取組の推進 学修環境の整備をさらに充実し、安全・安心な学生生活を送れるよう、多様な学生に寄り添った修学支援や心身の健康管理や経済的支援などの生活支援を実施する。 また、教員と就職課が連携・協力し、学生の希望する進路の実現に向け、進路指導や就職活動の支援を強化することにより、高い就職率を実現するとともに、県内ニーズを捉えた人材育成を行い、県内定着を推進する。 (6) 外国人留学生の受入れ・日本人学生等の海外への派遣及び国際交流の推進 外国人留学生の受入れや日本人学生の派遣留学を積極的に行う等により、学生を様々な価値観に触れさせ、国際感覚を持った多様な人材を養成する。 (7) 入試の適正な実施及び県内高校生の受入促進 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に沿った入学者選抜を適正に実施するため、入試業務・運営に関するチェック体制のさらなる強化を図る。 また、県内の優秀な学生を入学させるための学校推薦型選抜等の見直しや授業等を通じて県内高校との連携を図り、高大接続の強化を進めるなど、入学促進に積極的に取り組む。

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等														
(1) 実践的教育のさらなる推進 【1】地域産業の発展と持続可能な地域社会形成を担うリーダーとなる人材を育成するため、地域に根差した「しまなび」プログラムの実施により学生の自律的な学びをさらに進展させるとともに、その成果を踏まえ、本学の特色ある初年次教育の重要な一部として、全学においてプログラムの不断の改善に取り組む。 また、プログラムにおいてSDGsを踏まえた教育内容を充実させる。	①全学的にプログラムの点検を行う体制を整備し、毎年度点検を行うとともに、必要に応じて見直しを行う。		<<達成水準の取組状況>> ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善</td><td>・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善</td><td>・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善</td><td>・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善</td><td>・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善</td><td>・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善</td></tr> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><td></td></tr></table> 【期間評価（６年目終了時）】 <table><tr><td></td></tr></table> （令和５年度実績） ・フィールドワークについては、コロナ禍以前の行程に戻し実施したが、報告方法はより広く地域への公開がしやすいということからコロナ禍に導入したオンデマンド方式で行うなど良かった点を活かしながら実施した。プログラム実施後は、全学教務委員会を中心に課題整理を行い、物価高騰の影響に伴う経費面やコロナ後の受入先の状況を踏まえて持続可能なプログラムとするため令和６年度以降は行程を短縮する方針となった。 なお、令和６年度は学生が企画・提案した宇久島特産品開発について、観光協会が商品化を決定し実現に向けて進めることとなった。 （令和６年度実績） ・フィールドワークについては、令和５年度の見直し方針に基づき行程を１日短縮し集中的に活動を実施した。プログラム実施後、現状の課題や、よりPBLとしての教育効果を高める方法を検討し、令和７年度入学生より必修区分と配当年次の変更を行った。 必修区分：各離島地域について学ぶ座学科目である「長崎のしまに学ぶ」は引き続き必修科目として実施し、各離島の課題へ取り組むフィールドワーク科目である「しまのフィールドワーク」は選択科目とした。 配当年次：「長崎のしまに学ぶ」は、引き続き１年次配当とするが前期開講から後期開講とし、「しまのフィールドワーク」は、基本的な知識やスキルを習得したうえで取り組めるよう２年次配当とした。 （令和７年度実績） ・ （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善				
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度														
・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善														

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等												
	②プログラムにおいて、SDGsの項目に関連した内容を取り入れるとともに、毎年度その取組を取りまとめ、公開する。		●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table><thead><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開</td><td>・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開</td><td>・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開</td><td>・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開</td><td>・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開</td><td>・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開</td></tr></tbody></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・講義科目でSDGsについて学び、各グループのフィールドワークと該当するSDGs項目を一覧にし大学ホームページにて公開した。 （令和６年度実績） ・講義科目でSDGsについて学び、各グループのフィールドワークと該当するSDGs項目を一覧にし大学ホームページにて公開した。 （令和７年度実績） ・ （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 ＜令和５～８年度の実績の概要＞ ・ ＜令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込＞ ・ 【期間評価（６年目終了時）】 ＜令和５～１０年度の実績の概要＞ ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開												
【２】地域産業の発展と持続可能な地域社会形成を担うリーダーとなる人材を育成するため、「企業インターンシップ」などの実践的教育において、地域社会等のニーズに即した取り組みを行い、その課題解決を目指す。	①実践的教育の優れた取組について、毎年度全学的に共有するとともに、地域への公開を行う。		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><thead><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>・取組について、全学的に共有、地域への公開</td><td>・取組について、全学的に共有、地域への公開</td><td>・取組について、全学的に共有、地域への公開</td><td>・取組について、全学的に共有、地域への公開</td><td>・取組について、全学的に共有、地域への公開</td><td>・取組について、全学的に共有、地域への公開</td></tr></tbody></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・全学教務委員会にて各学科から報告のあった取り組みについて共有を行った。また、各学科において受入企業の関係者を招いた報告会や、大学ホームページへ取組の掲載、報告書の配布などにより取組みを公開した。 （令和６年度実績） ・各学科において企業インターンシップ等の実践的教育を実施し、受入企業の関係者を招いた報告会や、報告資料の配布を行うことで活動の共有を行った。また、大学ホームページの「実践的学び」のページに実践的教育活動関連の記事を充実させることで、地域社会等のニーズに即した取組や課題解決に向けた取組等を公開した。 （令和７年度実績） ・ （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ※実績報告書に実施した地域社会等のニーズに即した教育について、どのように全学的に共有、地域へ公開したかを記載	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開												

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																								
			《中期計画の達成状況》 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・																										
（２）教育の質の向上と保証 【３】ＩＲ機能の充実により、教学マネジメントに資するデータを随時収集・分析するとともに、その結果を学生や教職員に適宜フィードバックするための体制を整備する。 また、分析結果等を踏まえ、教育内容の改善や研修を実施するほか、必要に応じ他大学、産業界等と連携した教育を取り入れる。	①本学の教育内容を自ら点検・評価し、改善を行うなど、内部質保証の体制を令和５年度中に整備し、令和６年度以降、学生の学修成果等に関する情報について毎年度、全学に向けたフィードバックを行う。また、学修成果の可視化のため、令和７年度までにディプロマ・サブプリメントの制度設計を行い、令和８年度から導入する。 ②教員と学生との本学の教育に関する座談会について、令和５年度に検討を行い、令和６年度から実施する。		《達成水準の取組状況》 ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table> <tr> <th>R５年度</th><th>R６年度</th><th>R７年度</th><th>R８年度</th><th>R９年度</th><th>R１０年度</th></tr> <tr> <td>・内部質保証体制の整備</td><td>・全学に向けたフィードバックの実施</td><td>・全学に向けたフィードバックの実施 ・ディプロマ・サブプリメントの制度設計</td><td>・全学に向けたフィードバックの実施 ・ディプロマ・サブプリメントの制度の導入</td><td>・全学に向けたフィードバックの実施</td><td>・全学に向けたフィードバックの実施</td></tr> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・教育開発センターにて情報収集、分析、教育改善に関するレポート作成、全学教務委員会にて分析結果の評価、取りまとめを行うという既存の組織体制の役割と分担を明確にし内部質保証体制の整備を行った。また、個人情報保護やセキュリティポリシーに基づき教学情報の取扱いを明確にするため、教学情報の取扱要領を制定した。 （令和６年度実績） ・教育開発センターにて授業評価アンケートやALCS学修行動比較調査、卒業・入学時アンケート等の実施、分析を行い、全学教務委員会へ報告することで、全学に向けてフィードバックを行った。なお、これらの結果分析やカリキュラムマップを活用したディプロマポリシー達成状況のシミュレーション等を実施し学修成果の可視化の方策についても検討を進めている。 （令和７年度実績） ・ （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table> <tr> <th>R５年度</th><th>R６年度</th><th>R７年度</th><th>R８年度</th><th>R９年度</th><th>R１０年度</th></tr> <tr> <td>・座談会の実施方法等の検討</td><td>・座談会の実施</td><td>・座談会の実施</td><td>・座談会の実施</td><td>・座談会の実施</td><td>・座談会の実施</td></tr> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・座談会について規模や実施方法を検討し、学生14名、教員5名で試行的に開催し、取組みについて大学ホームページで公表を行った。実施結果等について、今後分析を行い令和６年度以降の本格実施に向けて調整を行う。 （令和６年度実績） ・昨年度の試行での課題を整理したうえで、学生20名、教員5名の対面方式で実施した。令和6年度は新たな試みとして座談会の前後にキャンパスツアー（シーボルト校）とランチミーティングを導入し、学生間の交流をより深められるプログラムとした。座談会では、4つのグループに分かれテーマごとに話し合ったことを全体で共有し、意見交換を行った。終了後のアンケートで得られた意見をもとによりよい座談会のあり方について検討を重ねていく。 （令和７年度実績） ・ （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度	・内部質保証体制の整備	・全学に向けたフィードバックの実施	・全学に向けたフィードバックの実施 ・ディプロマ・サブプリメントの制度設計	・全学に向けたフィードバックの実施 ・ディプロマ・サブプリメントの制度の導入	・全学に向けたフィードバックの実施	・全学に向けたフィードバックの実施	R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度	・座談会の実施方法等の検討	・座談会の実施	・座談会の実施	・座談会の実施	・座談会の実施	・座談会の実施		
R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度																								
・内部質保証体制の整備	・全学に向けたフィードバックの実施	・全学に向けたフィードバックの実施 ・ディプロマ・サブプリメントの制度設計	・全学に向けたフィードバックの実施 ・ディプロマ・サブプリメントの制度の導入	・全学に向けたフィードバックの実施	・全学に向けたフィードバックの実施																								
R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度																								
・座談会の実施方法等の検討	・座談会の実施	・座談会の実施	・座談会の実施	・座談会の実施	・座談会の実施																								

